

2025年9月期 決算説明会

株式会社メディネット

(証券コード：2370)

2025年11月27日（木）

1 業績

2 細胞加工業

3 再生医療等製品事業

売上高

810_{百万円}

前年同期

768_{百万円}

前年同期比

105.4%

研究開発費

452_{百万円}

前年同期

452_{百万円}

前年同期比

99.9%

営業損失

△1,445_{百万円}

前年同期

△1,384_{百万円}

(単位：百万円)	2024年9月期 累計実績(A)	2025年9月期 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額 (B)-(A)	比率
売上高	768	810	41	105.4
営業損失 (△)	△1,384	△1,445	△ 60	-
経常損失 (△)	△1,261	△1,339	△ 78	-
当期純損失 (△)	△1,276	△1,362	△ 85	-

■ 売上高

免疫細胞およびS-DSC®の細胞加工件数が当初の予想水準を下回った一方、ティーセルヌーヴォーから受託した技術移転に係る一時金の発生により、CDMO事業の売上が増加（前年同期比15.6%）し、810百万円（前年同期比105.4%）

■ 営業損失

原価率の上昇に加え、販売費・一般管理費の増加により、販売費及び一般管理費が1,555百万円（前年同期比103.9%）となった結果、1,445百万円（前年同期は1,384百万円）

■ 経常損失

投資事業組合運用益41百万円、受取利息16百万円、貸倒引当金戻入額37百万円等により、1,339百万円（前年同期は1,261百万円）

売上総利益・販売費及び一般管理費

(単位：百万円)	2024年9月期 累計実績(A)	2025年9月期 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額 (B)-(A)	比率
売上高	768	810	41	105.4
売上総利益	112	109	△2	97.4
売上総利益率%	14.7	13.5	-	-
販売費及び 一般管理費	1,497	1,555	57	103.9
研究開発費	452	452	0	99.9
販売費	174	221	47	127.3
一般管理費	870	880	10	101.2

■ 売上総利益

増収の一方、原材料費の高騰、労務費の増加や細胞加工受託の拡大に向けた体制整備に係る先行投資等により、
109百万円（前年同期比97.4%）

■ 研究開発費

再生医療等製品の開発に加え、脂肪由来間葉系間質細胞（ASC）の受託開始に向けたセットアップ費用増加の一方、研究開発案件の見直し等により、452百万円（前年同期比99.9%）

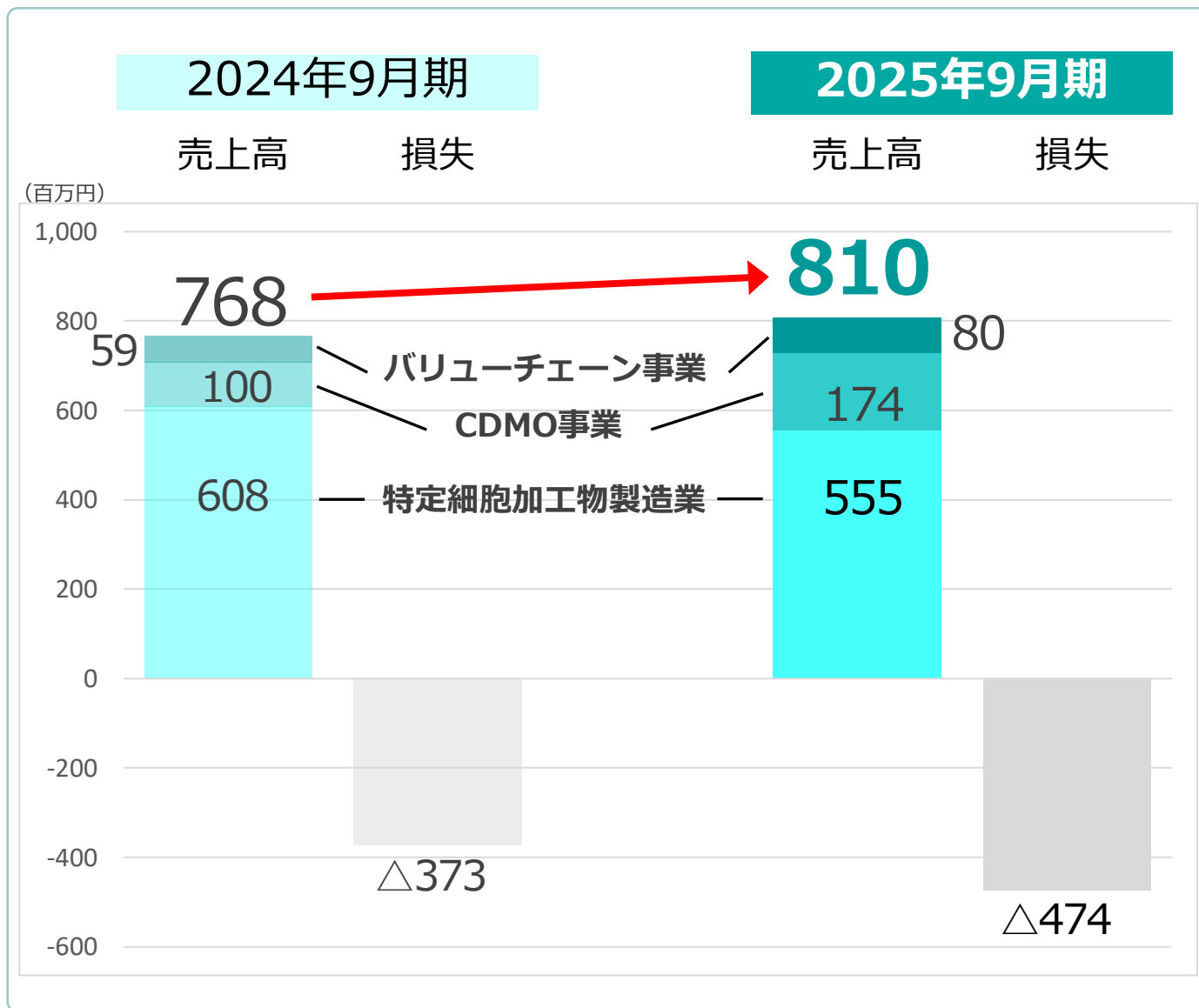
■ 販売費

製造受託促進に係るプロモーション活動の強化等により、221百万円（前年同期比127.3%）

■ 一般管理費

情報システム関連費用の増加等により、
880百万円（前年同期比101.2%）

細胞加工業：売上高・セグメント損失



■売上高

● 特定細胞加工物製造業

免疫細胞：4Qの取引先医療機関の患者数の低下により、細胞加工件数が予想水準を下回る

S-DSC®：前年同期に計上した技術移転一時金が発生しなかった一方、製造受託開始に伴う売上を計上したものの、細胞加工件数が当初予想水準を下回る

● CDMO事業

ティーセルヌーヴォーからの技術移転一時金の発生により増加

● バリューチェーン事業

台湾Medigen社からのロイヤリティ収入、医療機器販売等の計上により増加

■セグメント損失

● プロモーション費用の増加

● 新規細胞加工の受託体制の整備に係る先行投資

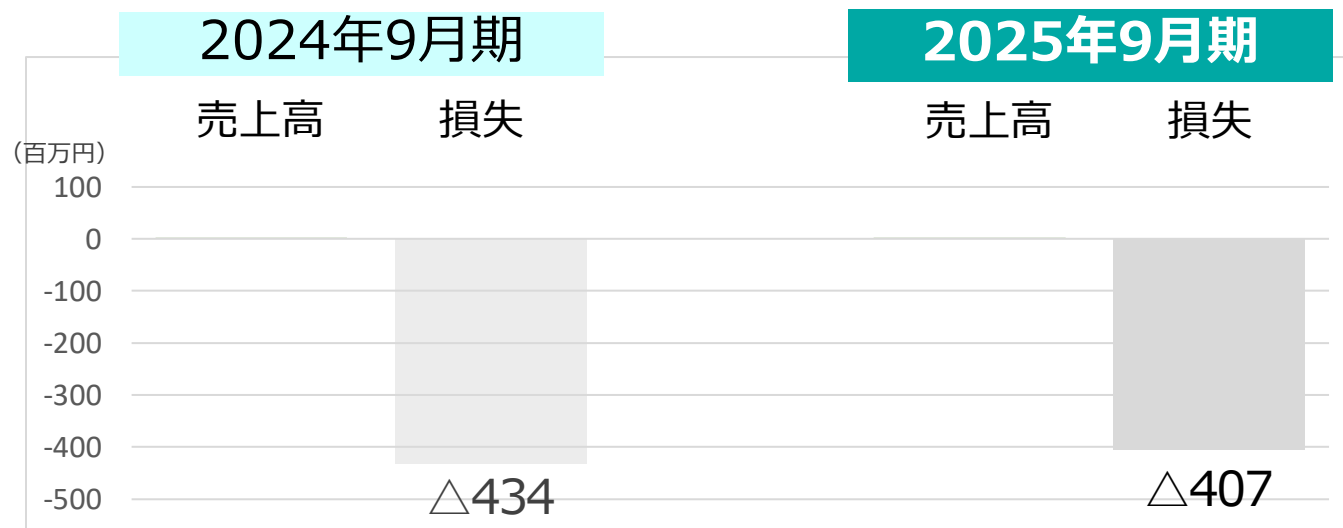
● ASCの提供開始に係るセットアップ費用の増加

■売上高

現時点で当社が製造販売承認を取得した再生医療等製品等はなく、少額のライセンス収入のみ

■セグメント損失

再生医療等製品の開発等に取り組んでおり、膝軟骨損傷治療に用いる自家細胞培養軟骨（MDNT-01）の開発をはじめ、新規の開発候補品の早期獲得に向けた活動、各種研究開発案件の取り組みにより、407百万円（前年同期は434百万円）



貸借対照表の概要

(単位：百万円)	2024年9月期(A)	2025年9月期(B)	増減額(B)-(A)
流動資産	5,013	3,611	△1,401
現金及び預金	4,651	2,170	△2,481
その他	361	1,441	1,079
固定資産	686	642	△44
有形固定資産	422	356	△66
無形固定資産	100	67	△32
投資その他の資産	163	217	54
資産合計	5,700	4,254	△1,445
流動負債	268	233	△35
固定負債	240	243	3
負債合計	509	476	△32
資本金	6,486	5,102	△1,383
資本剰余金	1,327	3	△1,323
利益剰余金	△ 2,714	△ 1,362	1,352
自己株式	0	0	-
評価・換算差額等	92	33	△58
純資産合計	5,190	3,777	△1,413
負債純資産合計	5,700	4,254	△1,445

■流動資産：現金及び預金

- 2,170百万円を保有（有価証券を含め3,170百万円）
- 減少分のうち1,000百万円を有価証券として保有

■流動資産：その他

- 有価証券 1,000百万円が増加

■資本金/資本剰余金/利益剰余金

- 第29回定時株主総会決議に基づき、
資本金及び資本剰余金が減少、利益剰余金が増加

自己資本比率 88.8%（前年末は91.1%）

1

業績

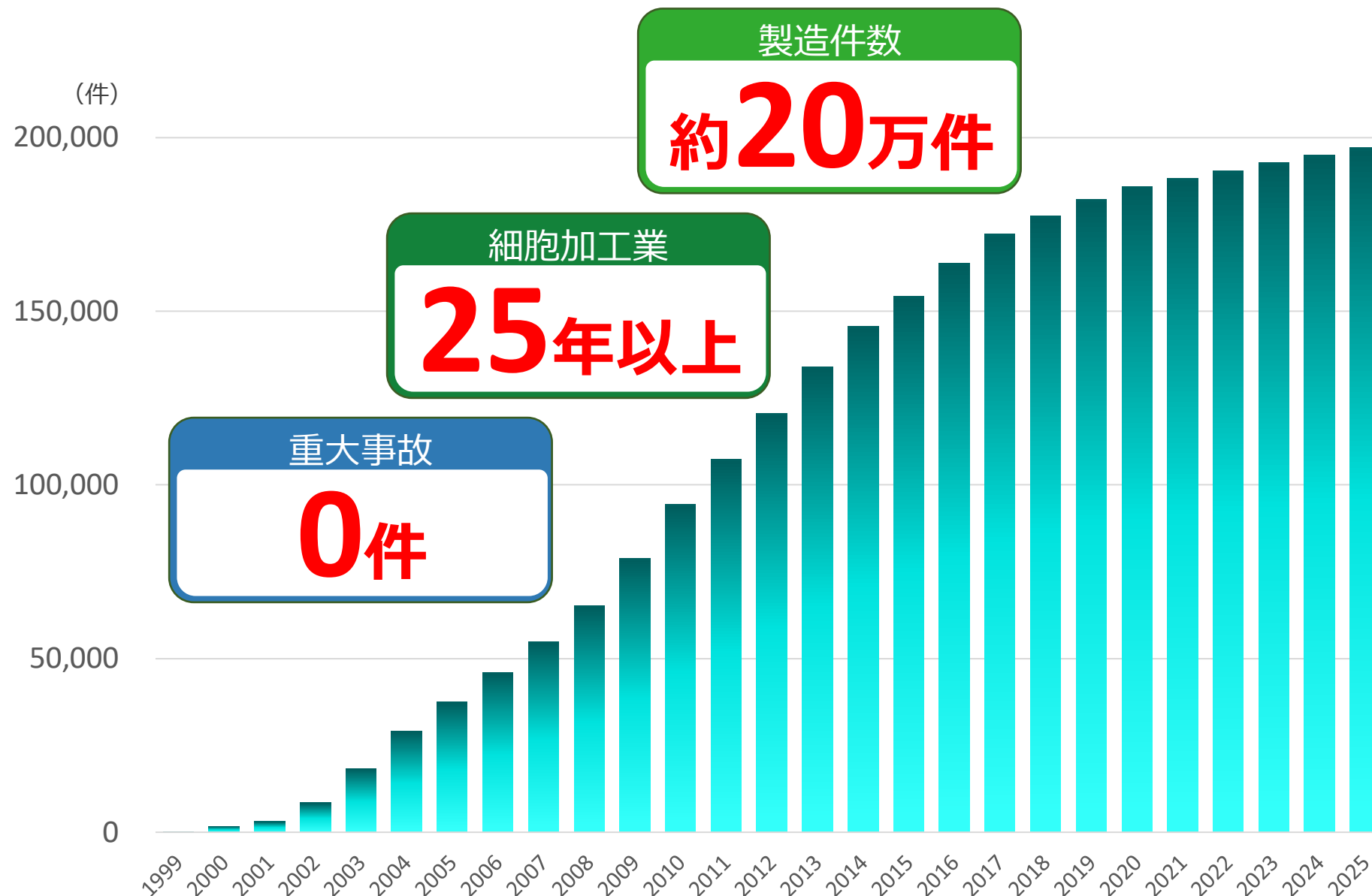
2

細胞加工業

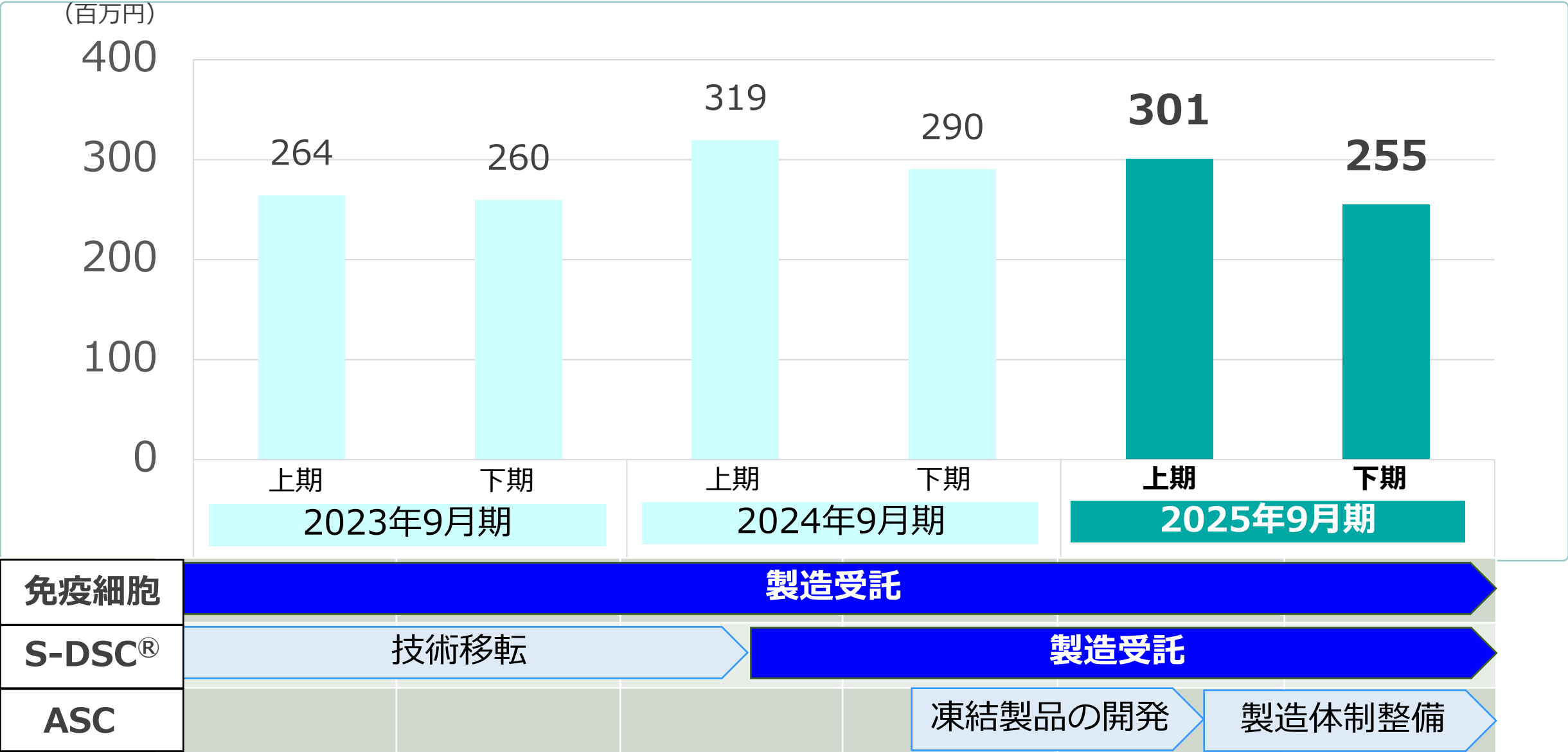
3

再生医療等製品事業

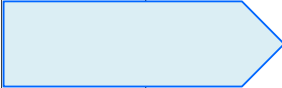
特定細胞加工物（免疫細胞）の製造件数（累計）



特定細胞加工物製造業：半期毎売上高推移



特定細胞加工物製造業の進捗及び今後の取り組み

細胞腫	ステージ			2025 年9月期下期	今後の取り組み
	技術 確立	製造 準備	製造 受託		
免疫細胞 ■ がん				・ 第4四半期に取引先医療機関における患者数が低下 ・ 新規契約医療機関の獲得	・ エビデンス強化に向けた臨床研究の推進（ICI不応例試験等） ・ 細胞加工数増に向けた医療機関支援
S-DSC[®] （資生堂からの技術提供） ■ 毛髪				・ 大学病院を含む医療機関4施設で製造受託を開始	・ 細胞加工の受託拡大に向けた体制整備
ASC ■ 肝疾患				・ 製造セットアップ完了	・ 2026年9月期中の受託開始
三次元骨様組織 （セルアクシア共同開発） ■ 歯科領域				・ 「3D-DCob」を用いた新規骨再生細胞治療の開発について第67回歯科基礎医学会学術集会で発表（9/6）	・ 臨床研究の開始を目指す

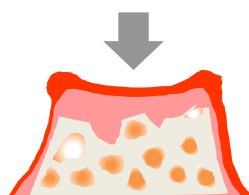
©2025 株式会社メディネット All Rights Reserved. 本データの著作権は当社に帰属します。無断転載、転用を禁止します。

3D-DCobを用いた新規骨造成法（セルアクシア）

歯周炎
細菌感染等による
炎症性組織破壊性疾患

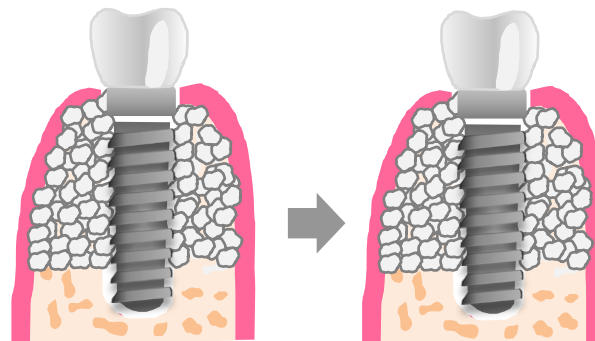


重度歯周炎



抜歯

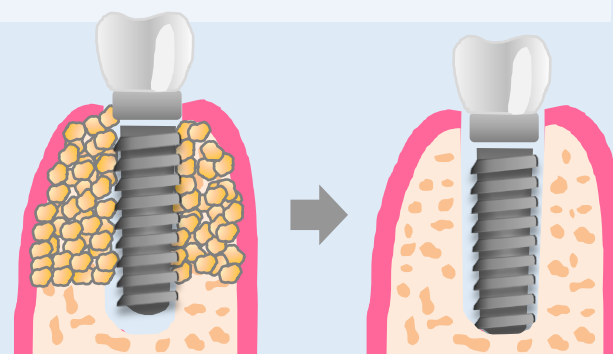
既存骨造成法



人工骨：ハイドロキシアパタイト

骨補填材は吸収遅く2～3年は残存し、異物として感染リスク有。
歯科通院による頻回メンテナンス要

3D-DCob 新規骨造成法



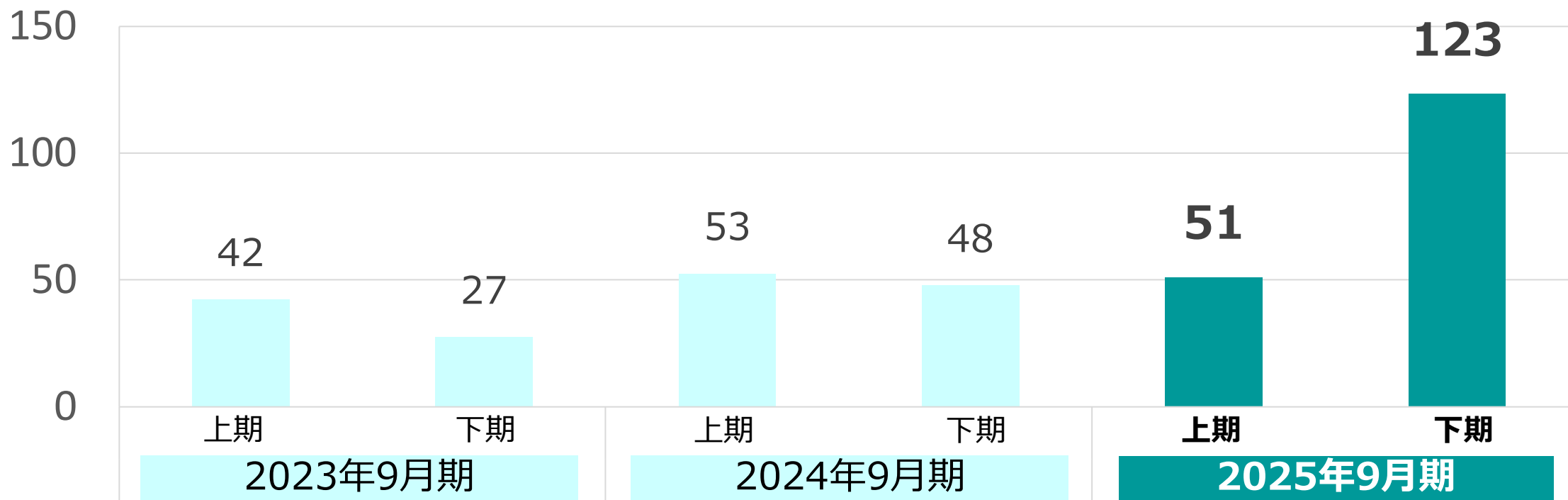
3D-DCob：骨芽細胞＋骨基質

高い安全性（自己細胞移植）
自己細胞由来骨様組織
骨欠損部位に早い骨再生効果が期待される

既存顎骨再建療法と異なり、自己歯肉骨芽細胞由来3D-DCobは**供給量に問題が無く、安全かつ早期に確実な骨再生効果を発揮でき、革新的顎骨再生医療**となりうる。

CDMO事業：半期毎売上高推移

(百万円)



ヤンセン
ファーマ

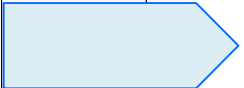
技術移転

製造受託（治験製品）

ティーセル
ヌーヴォー

技術移転

CDMO事業の進捗及び今後の取り組み

プロジェクト	ステージ			2025 年9月期下期	今後の取り組み
	契約 締結	技術 移転	製造 受託		
ヤンセン ファーマ				治験製品の製造受託の継続	市販製品の製造受託に向けた体制整備
ティーセル ヌーヴォー				技術移転等、治験準備が進行中	技術移転完了および治験製品の製造受託を目指す
	ティーセルヌーヴォーは臨床段階のバイオ医薬品企業であり、三重大学 珠玖研究室が開発した次世代CAR-T細胞療法を用いて、免疫系を賦活化することにより固形がんを治療することを目指す、アカデミア発バイオベンチャー企業				
AGC	細胞治療薬CDMO事業における戦略的パートナーシップ契約に基づく培養技術者の人的協業を開始				



1

業績

2

細胞加工業

3

再生医療等製品事業

開発品名/適応症等		開発ステージ				承認	2025年9月期	今後の予定
		前臨床	P I	P II	P III			
MDNT-01 (NeoCart®) 膝軟骨損傷	米 国	*1					• Ocugen社：NeoCart®の開発を子会社OrhoCellix社に移管 • 米国第Ⅲ相試験準備中	• OrthoCellix社：米国第Ⅲ相試験開始
	日 本				*2		• 国内第Ⅱ/Ⅲ相試験デザインについてPMDA対面助言申込み • 国内開発方針の検討	• 国内第Ⅱ/Ⅲ相試験デザインに関するPMDAとの協議に基づき、国内開発方針の決定
Stempeucel® 包括的高度慢性下肢虚血	イ ン ド	*1					• インドで初めて製造販売承認された細胞治療製品で、重症下肢虚血及び変形性膝関節症の効能で市販中	• 糖尿病性足潰瘍への効能拡大を検討
	日 本				*3		• Stempeutics社とオプションライセンス契約締結	• オプション権行使判断 • 治験開始に向けたPMDA相談実施と治験届提出

*1:米国第Ⅰ,第Ⅱ,第Ⅲ相試験（実施済み）

*2:米国第Ⅲ相試験（予定）

*3 :国内第Ⅱ/Ⅲ相試験（予定）

製品特性

- ・ 膝軟骨（硝子軟骨）に近い状態まで培養するため長期の臨床効果が期待
- ・ 移植の際に、培養軟骨を損傷部位に縫合する必要がなく、手術も容易

米国

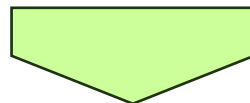
- ・ 米国での開発をOcugen社が子会社OrthoCellix社に移管
OrthoCellix社とCarisma Therapeutics社の合併契約が解消されたことにより、
米国第Ⅲ相試験の準備が遅延

日本

- ・ 国内第Ⅱ/Ⅲ相試験デザインについて、PMDA対面助言を実施
- ・ 米国における開発体制の変更に伴う治験開始が遅れていることから、
国内開発方針の決定も遅延

Stempeutics Research PVt. Ltd.（Stempeutics社）と契約締結

- Stempeucel®はインドで初めて承認された細胞治療用製品
- 対象疾患は、重症下肢虚血及び変形性膝関節症
- 重症下肢虚血は、現在までに600例以上の治療実績
- 他家の細胞治療用製品で独自の製造技術で製造（低コスト製造に期待）



オプション権行使判断に向け、インドでの承認申請資料の活用可否
及び国内試験デザインについてPMDAと協議中

2026年9月期中に治験届の提出を目指す

有効性

インド第III相試験成績※1

治療6か月後（12か月後）の有効性評価

- 安静時疼痛
78.1%（84.9%）減少
- 足関節上腕血圧比
37.0%（44.4%）増加
- 足潰瘍の完全閉鎖率※2
60.7%（82.1%）

市販後成績

600例以上の投与実績で同様の結果を確認

Subject ID:	Visit1 (Baseline)	Visit 6 (6 months)
(A) 105-0980- 17-08		
(B) 103-0980- 17-01		

第III相試験結果の論文 (<https://doi.org/10.1186/s13287-023-03292-w>)

※1 Stempeutics社が末梢動脈疾患に由来する重症下肢虚血を対象として実施した第III相試験、投与回数は1回

※2 足潰瘍の完全閉鎖は「潰瘍の完全上皮化を伴う消失で、潰瘍の面積が0であること」。完全閉鎖率は、投与前に認められた潰瘍が完全閉鎖した割合

Stempeucel®の製造はインドのKemWell Biopharma Pvt. Ltd.が実施

- 高度な開発・製造能力を有するアジアのトップグループのCDMOで、インドにおける最大手のバイオ医薬品CDMO
- グローバル規模でバイオ医薬品の製造を受託しており、米国食品医薬品局（FDA）や欧州医薬品庁（EMA）による査察実績も豊富であり、国際的な品質基準を満たすCDMO
- 2019年にStempeutics社と戦略的提携し、インドにおけるStempeucel®の製造体制を構築

KemWell Biopharma Pvt. Ltd.（インド・ベンガルール）



研究開発シーズ	開発ステージ		2025年9月期	今後の予定
	基礎	臨床		
HSP-105特異的TCR-T細胞 (国立がん研究センターとの共同研究)			・ HSP-105特異的TCR-T細胞の非臨床POCデータの取得を目指しマウス薬効試験継続中	・ HSP-105特異的TCR-T細胞の実用化に向けた非臨床POCデータの取得
免疫細胞療法のエビデンス (滉志会瀬田クリニック 東京との共同研究)			・ 先制医療における免疫細胞療法の有用性を確立するために臨床研究を実施中 ・ 免疫チェックポイント阻害薬（ICI）不応例に対する免疫細胞療法に関する臨床研究実施中（中間解析結果を論文発表）	・ 免疫細胞療法の更なるエビデンスデータの拡充
糖鎖修飾改変Tリンパ球 (2-DG添加培養技術)	 		・ 糖鎖修飾改変Tリンパ球単独の開発の中止 ・ 基盤技術として、CAR-T、TCR-Tへの応用のための基礎検討 ・ 本培養技術による免疫細胞療法の提供中	・ 基盤技術として、CAR-T、TCR-Tへの応用検討 ・ 技術導出の可能性検討
高感度抗体検出技術 MUSCAT-Assay (岡山大学との共同研究)	 		・ ICIの効果予測/判定のための診断薬の可能性を確認するために追加データ収集・解析 ・ がんリスク検査への応用を検討中	・ ICI効果予測の診断薬としての可能性見極め ・ がんリスク検査としての実用化に向け診断薬会社との共同研究実施

 薬機法下  安確法下

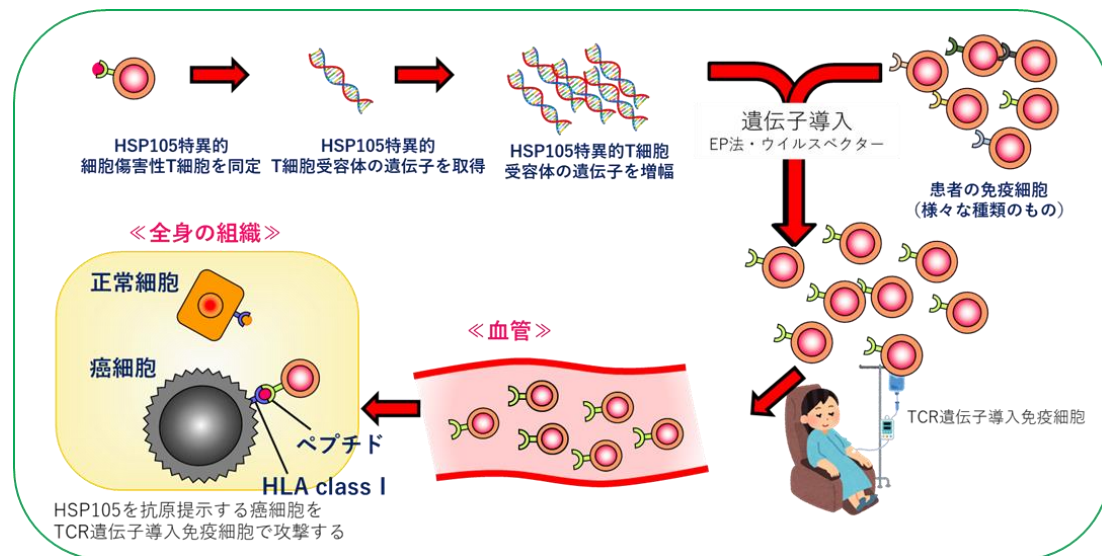
研究開発：HSP-105特異的TCR-T細胞

（国立がん研究センターとの共同研究）

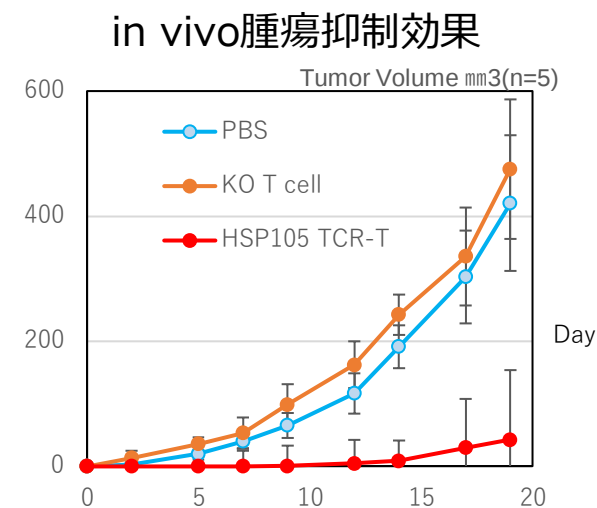
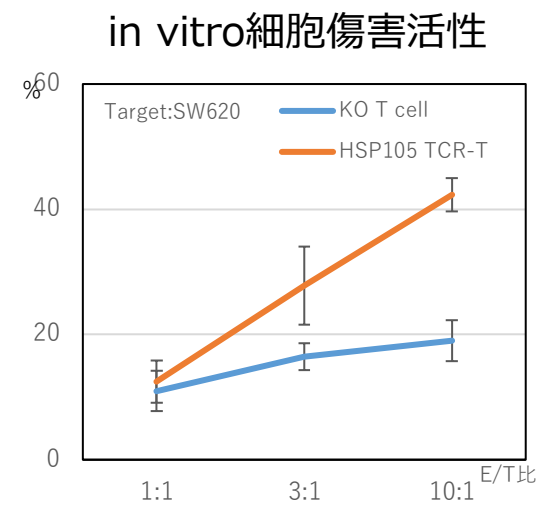
第22回日本免疫治療学会学術集会で成果を発表

- 内在性TCR遺伝子をノックアウトしたヒトT細胞に、HSP-105特異的TCR遺伝子を導入し、HSP-105特異的TCR-T細胞の作製に成功

- 作製したHSP-105特異的TCR-T細胞は、*in vitro*試験でHSP-105陽性細胞株に対して細胞傷害活性（下図左）、*in vivo* 皮内同時投与試験において腫瘍増殖抑制効果を示す（下図右）



※HSP-105：大腸がん、食道がん、咽頭がん、膀胱がん、乳がん、メラノーマ等の様々な固形がんを高発現



固形癌に対する非臨床有効性を示すデータ取得中

（滉志会 瀬田クリニック東京との共同研究）

自費診療における免疫細胞治療のエビデンスの拡充に向けた検討

1. 先制医療※における免疫細胞治療の有用性

- これまでの臨床研究において、免疫細胞治療の投与前後で、その割合が有意に増加または減少した免疫細胞が存在することが判明
- これらの免疫細胞の変動の意義を明らかにするため、追加の臨床研究を実施中

※先制医療：病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子等による予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療

2. 免疫チェックポイント阻害剤（ICI）不応例に対する免疫細胞治療（ $\alpha\beta$ T細胞療法）の忍容性・有効性

- 現在、22例まで実施済みで、目標症例数30例を目指し臨床研究継続中
- 本臨床研究の著効を示した症例報告論文が学術誌に掲載

※Anticancer Research 45(8), 3553, 2025; DOI: <https://doi.org/10.21873/anticanres.17716>

（岡山大学との共同研究）

技術特性

- ・微量の血液から、治療の効果予測等に役立つ自己抗体を高感度で効率的に定量できる技術
- ・ICI療法の効果予測/判定のための診断薬やがんリスク検査への応用の可能性
- 岡山大学と札幌医科大との共同研究で、免疫チェックポイント阻害薬（抗PD-L1抗体）の有効性をMUSCAT-Assayを用いて早期に判定することができることを示した論文が公表※2
- AI解析を用いた予測/判定精度の改善及び検査コスト低減のため使用する抗原数の削減を検討中
- がんリスク検査への応用について、診断薬会社と共同研究を実施中

※1 Multiple S-cationized antigen beads array assay

※2 Scientific Reports Published: 28 July 2025 DOI : <https://doi.org/10.1038/s41598-025-12069-5>
第22回日本免疫治療学会において発表した内容

(単位：百万円)	2025年9月期 通期実績	2026年9月期 業績予想	増減額	対前年同期比
売上高	810	943	132	116.4
細胞加工業	810	943	132	116.4
再生医療等製品事業	0	0	0	-
売上総利益	109	202	92	184.3
売上総利益率 %	13.5	21.4	-	-
販売費及び一般管理費	1,555	1,656	101	106.5
営業損失（△）	△1,445	△1,454	△8	-
細胞加工業	△474	△403	70	-
再生医療等製品事業	△407	△502	△94	-
全社経費	△562	△547	15	-
経常損失（△）	△1,339	△1,449	△109	-
当期純損失（△）	△1,362	△1,453	△90	-

この資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。

当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち歴史的事実でないものは、将来の事業に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営陣の現時点における判断に基づいており、顕在化・潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、これらの見通しに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りやデータのダウンロードなどによって生じた障害などに関し、事由の如何を問わず、一切責任を負うものではないことを予めご承知おき下さい。

Appendix

用語集

	事業関連用語	説明
1	細胞加工業/ 特定細胞加工物製造業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つである特定細胞加工物製造業は、医療機関で採取された患者様の細胞から、医療機関の委託に基づき、再生・細胞医療で用いる治療用の細胞(特定細胞加工物)を製造し、製造件数に応じて製造委託料を受領する事業。
2	細胞加工業/ CDMO事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるCDMO（Contract Development and Manufacturing Organization）事業は、再生医療等製品の治験製品および承認取得後の製品の製造受託をはじめ、実用化に係る各種業務を受託し、各種役務に応じた委託料を受領する事業。
3	細胞加工業/ バリューチェーン事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるバリューチェーン事業は、細胞加工関連プロセスから派生する技術・ノウハウなどを提供し、対価を受領する事業。
4	バリューチェーン事業/ 施設運営管理	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、既設の細胞培養加工施設の運営管理業務などを受託するサービス。
5	バリューチェーン事業/ 再生医療関連サービス	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、再生・細胞医療に関連する各種業務を受託するサービス。
6	再生医療等製品事業	再生医療等製品事業は、再生医療等製品の研究開発、製品開発を行う事業。製薬企業へライセンスアウトを行った場合、開発ステージに応じた対価を受領する。また、ライセンスアウトしたパイプラインが製造販売承認を取得した場合、売上高に応じたロイヤルティを受領する。

	細胞・技術・医療関連用語	説明（修正案）
1	NKT細胞活性化樹状細胞	NKT細胞（ナチュラルキラーT細胞：T細胞とnatural Killer (NK) 細胞の両方の特徴を持つリンパ球。Tリンパ球、Bリンパ球、NK細胞に次ぐ第4のリンパ球とされている）は、直接的にがんを殺傷するほか、サイトカインなどを産生して免疫応答を高めることが知られている。当社が特許権を保有する樹状細胞ワクチン加工技術を活用し、樹状細胞にα-GalCerを添加することで、体内のNKT細胞を効率よく活性化することが確認できている。
2	γδT（ガンマ・デルタT）細胞	γδT（ガンマ・デルタT）細胞は、近年、世界で注目されている免疫細胞の一種で、体内の様々な免疫機構に関与していると報告されている。γδT細胞の中でも、特にVγ9Vγ2という遺伝子の組み合わせのTCR（T細胞受容体）をもつγδT細胞は、がん細胞に対して強い攻撃能力を有していることが知られており、日本での臨床応用のみならず欧州を中心とした海外での研究開発も進められている。当社の開発したγδT細胞細胞培養加工技術は、末梢血中にわずか数%しか含まれていないVγ9Vγ2T細胞を選択的に活性化し、数千から数万倍に増殖させることができる技術。
3	脂肪由来間葉系間質細胞（ASC）	脂肪由来間葉系間質細胞（ASC）は、移植片対宿主病（GVHD）、脊髄損傷、クローン病に伴う複雑痔瘻の治療製品として臨床使用されており、骨や軟骨に対する疾患、心臓疾患、肝疾患、糖尿病等に対する臨床研究も進められている。様々な疾患に対する間葉系間質細胞治療の期待の高まりを受け、当社においてもASCの細胞加工技術の開発に着手し、その細胞加工技術を確立している。
4	骨造成治療法(歯科領域)	骨造成治療法は、近年のゲノムリプログラミング研究の目覚ましい発展により、特定の条件を満たすことで分化能を有する多能性細胞を介することなく、体細胞（線維芽細胞等）から目的の体細胞（骨芽細胞等）に直接転換（ダイレクトコンバージョン）する現象が見いだされ、将来の革新的医療を担う新技術。 セルアクシア社が開発を進める新規技術ダイレクトコンバージョン法は、患者様から容易な方法で採取できる線維芽細胞を原料として、短期間の簡易な製造工程で目的とする体細胞(骨芽細胞など)を作り出すことができる技術を応用することで治療に有用な様々な体細胞を創製し、画期的な医療技術として実用化が期待されている。
5	3D-DCob	当社が実用化を目指してセルアクシア社と共同開発を進めている新規骨再生細胞治療に用いる特定細胞加工物。線維芽細胞から骨芽細胞に直接転換させるDirect Conversion 法（ダイレクトコンバージョン法）と3次元細胞集塊培養技術を組み合わせ、人工材料を含まずに機能的な骨芽細胞とその骨芽細胞自身が産生する骨基質タンパク質で構成される3次元骨様組織。
6	S-DSC®	S-DSC®は、後頭部の頭皮から毛球部毛根鞘（DSC）細胞を採取し、体外で細胞を増やして特定細胞加工物にしたもの。 「S-DSC®」を頭皮に投与することにより、毛髪成長が促される可能性を示す結果が得られている。
7	ヒト白血球抗原（HLA）	ヒト白血球抗原（HLA：Human Leukocyte Antigen）は、白血球などの細胞表面上に発現する分子。

	細胞・技術・医療関連用語	説明（修正案）
8	HSP-105	HSP-105（Heat Shock Protein-105）は、国立がん研究センター先端医療開発センター免疫療法開発分野長中面哲也先生らが、膵がんの患者様のがん細胞と血液を使ってがん抗原を同定する SEREX 法を実施して同定されたがん抗原。HSP-105は、精巣以外の正常組織ではほとんど発現はないか弱く発現しているが、大腸がん、肺がん、膵がん、乳がん、胆道がん、食道がん、咽頭がん、神経膠芽腫、メラノーマなど、胃がんや肝細胞がんを除いたほとんどのがんの細胞で過剰発現している腫瘍特異性が高い抗原。構成HSP-105由来ペプチドは、構成するアミノ酸配列の内、特にがん抗原特異的細胞障害性T細胞（Cytotoxic T Lymphocyte: CTL）が強く反応する部分を指す。このペプチドをワクチンに用いることで CTL を効率的に刺激・増殖させることができる。
9	2-DGリンパ球 （糖鎖修飾改変Tリンパ球）	2-DGリンパ球は、細胞の糖鎖修飾・代謝調節作用を有する2-DG（2-deoxyglucose）を培養液に添加して作製したリンパ球。免疫細胞の分化・増殖・活性化・遊走に細胞内エネルギー代謝制御が重要なことから、2-DGを培養液に添加し培養することで糖鎖が改変され、これまでにない抗腫瘍効果を高めたT細胞を誘導することに成功。種々の免疫細胞治療の基盤技術として、応用可能性に向けて研究開発を推進。
10	CAR-T	CAR-Tは、キメラ抗原受容体（Chimeric Antigen Receptor）導入T細胞。
11	TCR-T	TCR-Tは、T細胞受容体（T Cell Receptor：T細胞の表面に存在する腫瘍抗原由来ペプチドを認識するタンパク）を強制的に発現させるよう遺伝子を導入させたT細胞。
12	先制医療	先制医療は、病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子などによる予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療。
13	免疫パラメーター	免疫パラメーターは、免疫力に関与する機能や各種細胞数を測定、評価する指標。
14	免疫チェックポイント阻害剤 ICI	免疫チェックポイント阻害剤（ICI：Immune checkpoint inhibitor）は、がん細胞を攻撃するT細胞の活性を抑制するシステム（例えばT細胞表面にあるPD-1タンパク質とがん細胞にあるPD-L1との結合）に対する阻害剤である。PD-1とPD-L1との結合を阻害することで、PD-L1により抑えられていたT細胞の働きを活性し抗腫瘍効果を発揮させる薬剤。
15	MUSCAT-Assay	MUSCAT-Assay（Multiple S-cationized antigen beads array assay）は、当社が岡山大学二見教授らとの共同研究で開発したタンパクの可溶化技術に応用した新規な自己抗体迅速測定抗原検査技術。日本、米国及び欧州等で特許取得済み。
16	包括的高度慢性下肢虚血 (Chronic Limb Threatening Ischemia)	包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）とは、足の血液の流れが著しく悪化し、足に潰瘍や壊死などの深刻な状態を引き起こすことを指す。従来、末梢動脈の閉塞により引き起こされる疾患として、重症下肢虚血（CLI）という概念が用いられていたが、近年ではCLTIという用語を使用することが推奨されている。CLTIは虚血のみならず組織欠損や感染といった要素も含めた“肢の運命”全体に着目した包括的な概念。